

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	7
➤ 会議・イベント案内	13
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	13
➤ 会員募集中	14

巻頭書記

本号は、JRRN 河川環境ミニ講座、韓国で開催しましたARRNの国際フォーラムおよびラウンドテーブル会議、ISE2010の活動報告、会員寄稿記事も水辺からのメッセージ vol.17に加えて、会員の方の活動報告や当ネットワーク事務局長のエコツアー参加の記事といった盛りだくさんの内容となっています。

準備に多くの時間を費やした ARRN 行事も先月、無事に開催を終え、少しだけふーっと肩の力を抜いているところです。

気がつくと今年度も後半に突入し、あんなに長い猛暑だったのに、ちゃんとキンモクセイの香りが秋を知らせてくれています。JRRN事務局では、改めて今後の活動について計画を立て、皆さまに有用な成果をご提供できるよう努力していきたいと思っております。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

第6回 JRRN 河川環境ミニ講座「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」開催報告 (平成22年9月8日開催)

平成22年9月8日(水)、(財)リバーフロント整備センターにて第6回JRRN河川環境ミニ講座を開催致しました。

今回は、徐宗学・北京師範大学教授を講師としてお招きし、「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」をテーマにご講演頂くとともに、参加者との活発な意見交換を行いました。

徐教授は、九州大学、山梨大学での研究、民間コンサルタントでの勤務実績があるなど、日本との関わりが深いことから、日本語でご講演を頂きました。



講演会の様子

近年の中国における深刻な水災害として、以下の4つが示されました。



①中国南部の大洪水（2010）



②中国南部の干ばつ（2010）



③みぞれ・吹雪災害（2008）



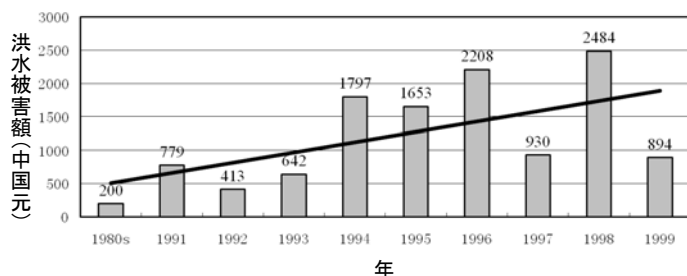
④水質汚染

また、気候変動による中国の水環境への影響として、以下が懸念されています。

- ・中国北部の河川の36%（2000年比）で水涸れ
- ・湖の水面積の18%が消失
- ・自然湿地面積の35%が消失
- ・砂漠化の進展

中国では、1998年の洪水を契機として、治水法（Flood Control Law）が策定され、治水事業が大幅に推進（1998年～2002年の年平均事業費が1991年～1997年の4倍以上）されるようになりました。また、近年の治水の考え方は、洪水の発生を抑制する

“Flood control”から、洪水の発生に適応する“Flood adaptation”に変化してきており、都市計画と河川管理（ハード・ソフト）の共同で、洪水を許容する空間を整備する政策が進められています。



中国における洪水被害額の推移

干ばつ対策としては、節水社会（Water-saving society）の発展を、政策として掲げています。具体的には、南北の水融通、工業水と農業水の振替利用、水利権の取引や適正配分などが、政府、企業、各水利利用者の連携のもと実施されています。



【利水券の基本ルール】

- ・水利利用者は利水券を購入する。
- ・水利利用者は利水券を売却してもよい。
- 農業：元値の3～4倍以下
- 産業：元値の10倍以下
- ・水利行政機関は、元値の1.2倍で利水券を買い取れる。

利水券（Water ticket）

水質汚染に対しては、①湖、②河川、③都市、④流域、⑤飲用水、⑥戦略及び政策の6つのテーマが設定され、水の安全利用、湖の富栄養化対策、汚染源対策、自然浄化作用回復などが取り組まれています。

中国の水管理の目指すものは「持続可能な発展」であり、水資源、水環境、生態系、水災害などの多様な観点から、気候変動による影響を見据え、2050年を目標にそれらの問題解決に向けた政策が推進されています。

講演後に行なわれた意見交換では、中国における水環境対策、ダム管理、日本の技術移転などについて議論が行われました。

気候変動やそれに伴う水環境への影響は、アジア共通で取り組んでいかなければならない問題であり、意見交換でも話題になったように、今後の日中間の技術の移転や知識の共有がより必要となってくることが認識された貴重な機会となりました。今回のミニ講座は、別途学会のために来日予定であった徐教授をお願いをして急遽開催が決まったこともあり、皆様へのご案内を十分にすることが出来ませんでした。今後、わかりやすい形で講演録を提供していきたいと考えております。今後もJRRN活動への皆様のご参加をお待ちしております。

（JRRN 事務局 後藤勝洋）

JRRN 活動報告(2)

ARRN 主催「第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」開催報告（2010年9月14日・韓国ソウル）

現在JRRNが事務局を担うARRNでは、2010年9月14日（火）に韓国ソウル市にて「第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」を開催いたしました。これらは「ISE2010(生態水工学国際シンポジウム)」の特別セッション内で開催し、同シンポジウムで基調講演を行ったヨーロッパ河川再生センター（ECRR）会長のFokkens氏にもご参加いただき、先駆的な河川再生ネットワークの経験を通じた貴重な情報交換、意見交換ができました。

上記の2つの行事の概要をご報告いたします。

■第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム

- 日時 2010年9月14日(火)14:00～15:30
- 会場 COEX（韓国ソウル市）
- 主催 アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- 座長 白川直樹(JRRN技術委員、筑波大学准教授)、Suk Hwan JANG（KRRN技術委員）

「水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」は毎年開催しているARRNの活動の1つであり、今回で7回目を迎えました。下記の5題についてご講演をいただき、他にも多くの特別セッションが開催されている中、多くの方が聴講のために足を運んでくださいました。



玉井会長による開会の挨拶

■講演1：Bart Fokkens氏（ヨーロッパ河川再生センター会長）

「River Restoration in Europe and the European Centre for River Rest」

優良な河川再生の事例として、Danube川流域で行われている河川と生息場所の連続性の再生についてご紹介いただき、オーストリア、ブルガリア、クロアチアにおける事業についての説明、後半はECRRの発展経緯やこれからの活動についてご講演いただきました。

■講演2：Wang Xingong氏（黄河水資源保護科学院、中国）

「Study on Environmental Flows and Eco-restoration Practice in Yellow River Delta」

9つの省を流れる黄河は、水質や渇水を中心とした問題をかかえており、オランダと技術提携を結び黄河の水資源管理にかかわる事業が行われているそうです。今回は、渡り鳥の中継地でもある黄河デルタにおける調査やデルタを管理するための環境流量の検討についてご講演いただきました。

■講演3：傳田正利氏（土木研究所河川生態チーム）

「Improvement of Individual-based models by using GIS and a Wild Animal Auto-tracking System」

野生動物の生息場所の保全を考えるために、個体ベースモデル（IBMs）という数理モデルが利用できます。北川流域をフィールドとし、自動追跡システムを利用してアナグマの行動と空間利用を分析したデータをもとに、IBMsの改善について発表してくださいました。



■講演4：Sunok Jeon氏（水生生態復元事業団）

「Development of Technology for Aquatic Ecosystem Restoration in Korea」

韓国政府環境部で設立された2006-2015年までの水資源基本計画において、魚がいて人が泳げる生態系が保たれた健全な川づくりが明記されており、2007年に水生生態復元事業団(CAER)が設立されました。講演では、水辺生態系再生のための技術発展を目指すeco-star事業の取り組みと具体的な再生事例をカテゴリーごとにご紹介いただきました。

■講演5：Weon Jae Kim氏（韓国建設技術研究院）

「A Prototype of Decision Support System for Ecological Urban River Restoration」

都市河川の再生計画のためには、水資源の評価技術、水資源の適切な供給や決定支援システムなどを統合した研究が重要となり、都市河川の水質および水量を管理する決定支援システムのプロトタイプを提案するために行われた研究について発表してくださいました。

●国際フォーラムURL→

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

■アジアの河川再生技術に向けたラウンドテーブル会議

- 日時 2010年9月14日(火)16:00～17:30
- 会場 COEX（韓国ソウル市）
- 主催 アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）、韓国河川再生ネットワーク（KRRN）
- 共催 日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）、中国河川再生ネットワーク（CRRN）
- 司会進行：玉井信行氏（ARRN会長、IAHR会長）
BongHee Lee氏（KRRN事務局長）
- パネリスト：
 - ・ Bart Fokkens氏（ECRR:ヨーロッパ河川再生センター会長）
 - ・ Dongya Sun氏（中国水利水電科学研究院、CRRN事務局長）
 - ・ 白川直樹氏（筑波大学、ARRN技術委員）
 - ・ Sukhwan Jang氏（韓国Daejin 大学、ARRN技術委員）

アジアの河川再生技術に向けたラウンドテーブル

会議は、アジア各国及びネットワークに関わる代表者を中心として、河川・流域再生におけるネットワークの利用の仕方等について議論及び意見交換を行いました。アジアにおける河川・流域再生の発展につなげることを目的とし、初めてラウンドテーブル会議形式で意見交換及び議論を行いました。



会議の様子

会議後半には、会場の聴講者からも積極的な意見が出て、参加者全体で議論ができました。日本、中国、韓国という同じアジアでも事情は異なり、今後の取り組みにも課題は多くあります。会議内で出た疑問等には、ECRR会長から丁寧な意見やアドバイスをいただきました。



左からECRR会長、KRRN事務局長、KRRN技術委員

ラウンドテーブル会議の内容は議事録にまとめ、ARRNの活動や河川再生にかかわるガイドライン ver.2の更新に反映させていく予定です。議事録は今後、ホームページに掲載しますのでご覧ください。

●ラウンドテーブル会議URL→

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2327.html>

（JRRN事務局 沼田彩友美）

JRRN 活動報告(3)

「第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)」参加報告 (2010 年 9 月・韓国ソウル)

2010 年 9 月 13 日 (月)～16 日 (木) にかけて、韓国・ソウル市の COEX 国際会議場にて「第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 (8th International symposium on Ecohydraulics 2010)」が開催されました。

JRRN 事務局では、この機会に論文発表を行うとともに、JRRN が現在事務局を担う ARRN として特別セッション開催や展示ブースを運営しましたので、本行事での活動概要をご報告させていただきます。

本分野の最新の知見を交換することを目的に以下の分野に関わる活発な交流が行われました。

<本セッションのテーマ一覧>

- ・河川再生
- ・環境流量
- ・ハビタット分析と再生
- ・湿地や海岸での生態水工学
- ・水域生態学
- ・土砂流出と植物生息環境の応答
- ・気候変動と生態水工学 等々

【1】「生態水工学国際シンポジウム」とは？

「生態水工学国際シンポジウム」は、IAHR（国際水圏環境工学会）に 17 存在する委員会の一つ「生態水工学委員会」の国際行事として、これまで以下の国々で約 2 年に一度の頻度で開催されています。

- ・第 1 回： ノルウェー（1994 年）
- ・第 2 回： カナダ（1996 年）
- ・第 3 回： アメリカ（1999 年）
- ・第 4 回： 南アフリカ（2002 年）
- ・第 5 回： スペイン（2004 年）
- ・第 6 回： ニュージーランド（2007 年）
- ・第 7 回： チリ（2008 年）
- ・第 8 回： 韓国（2010 年）

8 回目となる本年のシンポジウムは、アジアで初となる韓国で「韓国水資源協会」主催行事として開催され、韓国現地組織委員長を前：韓国河川・流域再生ネットワーク (KRRN) 事務局長の Hyoseop Woo 氏が務められました。

【2】「第 8 回生態水工学国際シンポジウム」の概要

「生態学と水工学の橋渡しをし、自然と共生した社会の新たなニーズを導く」を主テーマに、世界 30 カ国より 500 名以上の河川環境分野の専門家が集い、



開会式での玉井教授挨拶（IAHR/ARRN 会長）



ヨーロッパ河川再生センター会長の特別講演



閉会式の様子

【3】JRRN 事務局による論文発表

「河川再生 (River Restoration)」をテーマとする技術セッションにおいて、「日本における河川再生の特徴と事例紹介 (Characteristics of River Restoration in Japan and Case Studies)」と題した発表を JRRN 事務局・後藤 (財団法人リバーフロント整備センター・企画グループ) が行いました。

発表では、日本における河川環境改善の歩みを簡単に説明したのち、日本各地で進められている河川再生を目的とした事業事例を複数取り上げ、日本における本分野の取組みをシンポジウム参加者の方々に紹介するよい機会となりました。



JRRN 事務局による論文発表の様子
(発表者：JRRN 事務局・後藤勝洋)

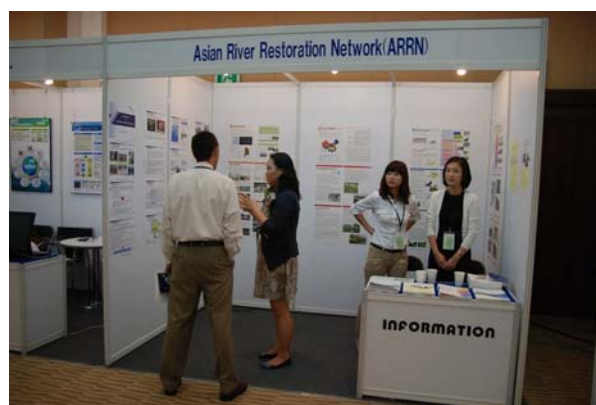
【4】ARRN 特別セッションの開催

ISE2010 では、本セッション(【2】参照)の他に、世界の生態水工学の研究や実務、技術普及に関わる団体が主催する 23 の特別セッションが開催されました。この中で、ARRN 主催行事として「第 7 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」を開催し、ISE2010 参加者との情報・意見交換をすることができました。両行事の詳細は前記事をご覧ください。

【5】ARRN 展示ブース運営

展示会場では、「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」として展示ブースを設置し、ARRN 及び各国内ネットワークや日中韓を中心とした河川再生事例を紹介しました。

展示ブースでの説明は、ARRN を構成する JRRN (日本)、KRRN (韓国)、CRRN (中国) 事務局が交代で担当し、ISE2010 参加者の方々と河川再生に関わる技術交流を行うことができました。



ARRN 展示ブースの様子 (KRRN 事務局担当時)



韓国 4 大河川再生事業の展示ブース

なお、ISE2010 で得た情報は、今後 JRRN ホームページ等を通じ JRRN 会員皆様に還元していきたいと思っています。

最後に、ISE2010 参加に関わる諸準備に際し、ISE2010 事務局との様々なご調整を担って頂きました韓国河川・流域再生ネットワーク (KRRN) 事務局の皆様に謝意を表します。

(JRRN事務局 和田彰)

会員寄稿記事(1)

愛媛県 重信川の「泉」と「霞堤」の再生

寄稿者：藤原 美紀（鞍瀬塾事務局・JRRN 会員）

(1) 中予地区研修会のあらまし。

「周桑いのちの樹」の専門部会の東予環境グループと鞍瀬塾が主催している多自然川づくり研修会のうち、中予地区研修会を重信川堤防横の松山市水防センターを会場として、6月22日(火)と8月31日(火)の2回開催しました。参加者は、行政関係者、NPO、地域住民、施工業者等で1回目は21名、2回目は22名の方が参加しました。(多自然川づくり研修会の主旨については前寄稿をご覧ください。)

(2) 1級河川「重信川」とは。

重信川は、東温市東三方ヶ森を源に、松山平野を潤し伊予灘へと注ぐ、流路延長36km、流域面積445km²の川であり、昔から暴れ川として有名で、河川名は江戸時代に改修工事を行った松山藩士の足立重信の名前からつけられています。

なお、重信川は今、“瀬切れ”、“水質の悪化”、“植生の減少”、“失われつつある泉”、“干潟の保全”、“霞堤の環境悪化”の6つの課題を抱えており、現在、重信川自然再生事業に取り組んでいます。

今回の研修では、「泉」と「霞堤」を取り上げていますが、重信川は伏流水が豊かで、少なくとも131の「泉」があったことが分かっています。また、重信川の堤防には、昔から「霞堤」という特徴的なつくり方が行われていました。大きな被害を出す洪水を防ぐため、あらかじめ水の逃げ道をつくっておく方法で、本流の水を外に出す役割と、いったん外にあふれた水を本流に戻す役割があります。そして、堤防の中の本流と支流や泉などの自然環境をつなげる大切な場所でもあります。

(3) 多自然川づくり研修会について

1) 第1回研修会について

午前中の講義では、吉村伸一氏（(株)吉村伸一流域計画室）を講師に、これまで行われてきた「多自然型川づくり」の課題と、今後進めていく「多自然

川づくり」の要点について、事例を用いて説明して頂きました。講義では、テレビ朝日の報道ステーションで放送された“吉村氏、島谷教授（九州大学大学院）らが取り組まれた多自然川づくり”も紹介され、参加者は興味深くビデオを見ていました。



講師による講義の様子

午後の実地研修では、松山市の「松原泉」の再生事業を取り上げ、松山河川国道事務所より説明をして頂きました。事業では、松原泉の再生と重信川をつなぐ小川が再生されています。また、事業が終了してからまだ時間が経っていないため緑が少なく、快晴だったこともあり、河原を散策する人や自転車専用道を通る自転車の姿は少なかったようです。



松山河川国道事務所
による説明



再生された小川



位置図

2) 第2回研修会について

午前中の講義では、(財)リバーフロント整備センターの主席研究員内藤正彦氏をアドバイザーに、改正された「中小河川に関する河道計画の技術基準について」を中心に、「多自然川づくりポイントブックⅡ」などについても説明して頂きました。講義後には、参加者の方から専門用語について質問が上がるなど、積極的な姿が見られました。

午後の実地研修では、「広瀬霞」、「開発霞」、「三ヶ村泉」を取り上げ、松山河川国道事務所より説明をして頂きました。



アドバイザーによる講義の様子

最初に行った砥部町の「広瀬霞」は、霞堤の内側部分に土がたまり、ゴミの不法投棄の集積場と化していた場所です。「霞堤」という仕組みそのものもあまり地域住民からは理解されておらず、過去には、堤防が切れかかっていると誤解されて、土のうを積んで堤防を高くされたこともあります。施工業者が一番苦労したのは、溜まっていた土の中から出てきた不法投棄ゴミの分別だったということです。



松山河川国道事務所による説明

2番目に行った東温市の「開発霞」は、東温市の重信かすみの森公園の一部となっています。緑も多く、遊具も設置されて、近隣住民の憩いの場所となっており、親子連れの姿がいつも見られます。ここでは、ウマノスズクサを好むジャコウアゲハの保護

に取り組んでいる重信くらしの会から保護活動について話をしていただきました。



重信くらしの会による説明

3番目に行った東温市の「三ヶ村泉」は、「松原泉」や「広瀬霞」の再生事業のモデルになっており、1781年から1790年の10年の歳月をかけて3つの村が共同で掘った泉です。湧水量が豊富で流れが速く、雑木林に囲まれた幻想的な景観やそこに暮らす生き物たちの生態系は、最も自然に近い形を残しています。



一番自然に近い三ヶ村泉
(四国のみずべ八十八ヶ所)

(4) 現地見学を終えて

重信川は、「松原泉」、「広瀬霞」とも、事業が終わってから、高水敷まで水が上がったことがありません。高水敷まで水が上がり、「泉」や「霞堤」と本流が本格的につながった時、整備した箇所でのどのような変化が起きるのかそれが楽しみです。

また、常に人の出入りのある「開発霞」で、あまりゴミを見なかったことが印象に残りました。参加者の方々からも、川の自然環境を守るためには、ただ事業に反対するだけでなく、川のいろいろな仕組みや法律、規則などを知り、学ぶことが必要になると言われていました。これからは、行政だけが川を守るのではなく、いかに地域の人たちにも関心を持ってもらい、常に川に親しんでもらうことが、その川の自然環境を守る一番の近道だと感じました。

会員寄稿記事(2)

霧島天降川(鹿児島)のエコツアーに参加して ～日本の川の原点はこんな川かもしれません～

寄稿者：佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター・JRRN 事務局長）

ある観光広報誌で見かけた「奥霧島エコツアー」の記事に引かれて、平成22年8月末、霧島の自然やそこを流れる天降川上流（奥天降）を訪れた。霧島は鹿児島県と宮崎県にまたがる高原地域で日本で初めて指定された国立公園の1つである。天降川は霧島連山の1つ、国見岳を水源にして鹿児島湾に注ぐ411km²の2級河川である。「天降川」と書いて“あもりがわ”と読む。日本神話で天照大神の孫であるニニギ命が高天原から地上へ降りたとされる「天孫降臨（てんそんこうりん）」に由来している。実際、天降川はその名のとおり、清らかで神聖な雰囲気を持った川である。天降川には霧島連山からの大量の湧水が絶えることなく湧き出しており、河岸や川底にはカワゴケソウなど全国的にめずらしい動植物が数多く生息している。私がこれまで見てきた様々な川のなかで、一、二を争う「いい川」であった。加えて霧島は坂本龍馬とお龍さんの日本初の新婚旅行で訪れた地でもあり、天降川のほとりの温泉（塩浸温泉）で宿泊、ゆっくり休養したと言われており、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」でも先日登場した。なお、今回は訪れなかったが下流部は「ふるさとの川」として整備されている。



図-1 霧島（奥天降）の概要（興松「奥天降ものがたり」

こんなに自然豊かな天降川であるが、鹿児島空港のすぐ東側、車で10分ぐらいのところを流れている。時間的には東京からきわめて近いところにあるのである。当日の参加は私1人であったが、「NPO 奥天降霧島」の興松さんが車で迎えにきていただいて、午前9時半ごろから午後5時ごろまで現地を案内していただいた。最後は地元の共同温泉で汗を流して、鹿児島空港まで送り届けていただいた。興松さんから別れ際に「仕事に疲れたら友達を連れていつでも癒しに来てください」と温かい言葉をいただいたが、いっそのこと“天降川を東京へ持ち帰りたい…”と夢のようなことを考えてしまう川であった。以下では写真を追いながら天降川の自然の一端を紹介する。なお、エコツアー参加はいつでも受け付けているとのことであるが、詳細は下記の興松さんに問い合わせさせていただきたい。

（問合わせ先）

興松久夫さん（NPO 奥天降霧島）

電話：0995-55-3038、メール：okimatsu@po.mct.ne.jp

<NPO 奥天降霧島>

自然を愛する多くの人々に対する行政・地域住民及びふるさとの発展を願う人々と手をつなぎ、新たな観光地を掘り起こし、手つかずの大自然、残された神話伝説や自然遺産を保全しながら、観光鹿児島にふさわしい、「滞在型」観光地、ニューツーリズム等に関する事業を行うとともに、さらに自然に学ぶ高齢者等の生きがいがづくり、霧島の大自然が育む環境教育、食育による青少年健全育成事業、加えて観光施設など公の施設の運営、管理に関する事業を行い、公益の増進に寄与することを目的として活動する団体です。

◇写真1 源流の湧水状況



集合したJR肥薩線嘉例川駅から30分ほどで天降川の支川である久留味川源流に到着。崖下からこんこんとわき出る毎秒数十m³の大量の湧水に驚かされる。湧水が、年中、とぎれなく湧出しているのが目の前で見られる。動画であればもっと迫力がわかるのに残念……。興松さんによると「ここは湧水を汲みに多く人が訪れるので地元の有志でいつも河川清掃して自然環境の保全に努力している。行政は地元の意見をよく聞いて地域活性を進めてほしい」とのこと。

◇写真2 天降川の流れを体感



湧水を追っかけるように下流へと下る。流れは相当速いが、川は河床が硬い岩でできているため、それほど深いところもなく、川の中に入ってきれいで冷たい川の流れをじゃぶじゃぶと体感することができる。当日は気温30度を超える暑さであったが、付近は快適でせいぜい25度ぐらいであった。

◇写真3 トンネルの上は鉄道です。



このトンネルは延長100m、幅、高さ5mほどであるが、100年ほど前に鉄道建設（JR肥薩線）の必要から土運搬のため、川を埋めてトンネルが作られた。真っ暗なトンネルをロープをたどりながら探検気分でも通過。写真中は興松さん。興松さんいわく「あまり知られていない珍しい施設なので研究してみたらどうですか」

◇写真4 爽やかな水辺で昼食



下流へ下る途中、昼食タイムとなり、興松さんの奥さんや仲間の方々が特別に河原で天然アユ、手作りおにぎり、地元産の野菜で満腹になるまでおもてなし。天降川のアユは最高で食べきれなかったのもので、残りは包んでおみやげにして東京まで持ち帰りました。爽やか水辺で心こもった昼食は思い出になりました。みなさんともお友達になりました。

◇写真5～8 奥天降自慢の数々

びしょびしょになって歩いて見た、「長年の流れの力でできた甌穴群」、「カワゴケソウなどの貴重な動植物」、「西郷隆盛が水田開発のために提案したと言

われる河道ショートカットの現場（工事を始めたが岩が硬くて十分な断面が取れず、途中で断念）」などの「川自慢」はたいへん勉強になりました。



写真5 ハートに見える甌穴
(人が作ったものではない)

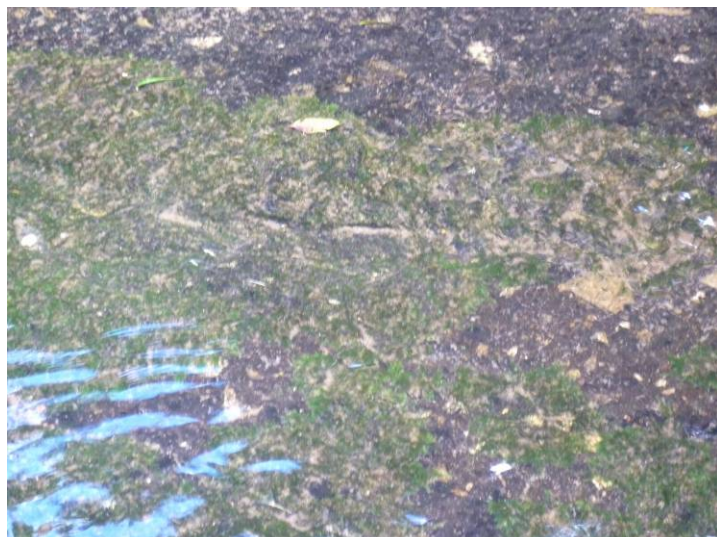


写真6 河床に生えるカワゴケソウ



写真7 巨大なカワガニ

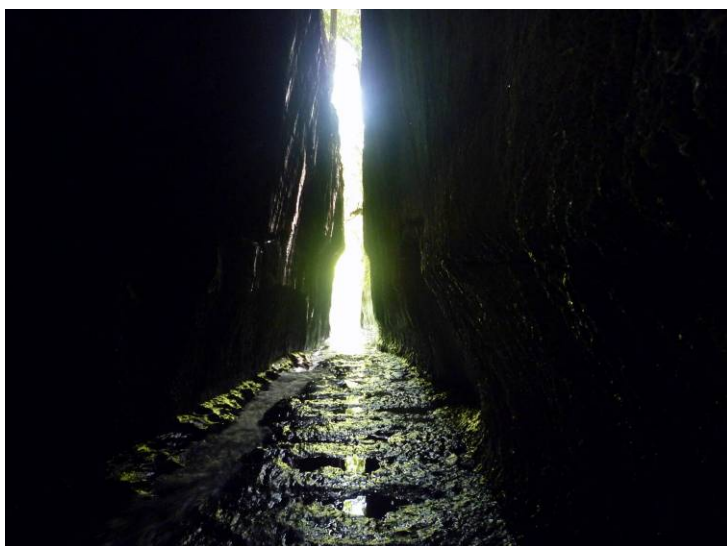


写真8 隆盛が提案したショートカット
(岩が堅くて大きく掘りきれず途中で断念)

水辺からのメッセージ No.17

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

ロマンティック街道起点のまち

ヴェルツブルク一番の眺望：丘陵地のぶどう畑と旧市街のオレンジ色の屋根瓦が美しく調和



撮影：2010年8月（ドイツ・ヴェルツブルク・マリエンベルク要塞から）

◆マイン川の軸を骨格として

世界遺産で有名なレジデッツは、旧マイン橋の軸線上の向こうに、背後の庭園群に囲まれ、地元産の砂岩で彩られた宮殿として望めます。この庭園でモーツァルト音楽祭が開かれます。旧マイン橋（Die Alte Mainbrücke 写真左端）は1886年まではヴェルツブルク唯一の橋として、存在感を示します。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内（2010年10月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■江戸東京博物館 特別展「隅田川」

○日時：2010年9月22日（水）～2010年11月14日（日）

○主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 等

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2263.html>

■川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば

○日時：2010年10月8日（金）～10日（日）

○主催：全国大会 in ちば 実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2371.html>

■第10回川に学ぶ体験活動全国大会 in かごんま

○日時：2010年10月9日（土）～10日（日）

○主催：全国大会かごんま実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2370.html>

■水郷水都全国会議 第26回滋賀大会

○日時：2010年10月9日（土）～10日（日）

○主催：水郷水都全国会議

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2287.html>

■第7回流域フォーラム「流域にかかわる水環境とわたしたちの関わり」

○日時：2010年10月11日（月）

○主催：社団法人 流域フォーラム

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2359.html>

■歴史的用水国際シンポジウム in 金沢

○日時：2010年10月14日（木）～15日（金）

○主催：歴史的用水国際シンポジウム実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2154.html>

■水の文化交流フォーラム 2010

○日時：2010年10月15日（金）13時30分～

○主催：ミツカン水の文化センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2306.html>

■第3回近畿現地ワークショップ in 淀川

○日時：2010年10月15日（金）～16日（土）

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2285.html>

■第1回全国小水力発電サミット in 都留

○日時：2010年10月16日（土）～17日（日）

○主催：サミット in 都留実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2262.html>

■第3回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2010年10月23日（土）～24日（日）

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2305.html>

■第149回 河川文化を語る会

○日時：2010年10月25日（月）18:00～20:00

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2272.html>

■第151回 河川文化を語る会

○日時：2010年12月13日（月）18:00～20:00

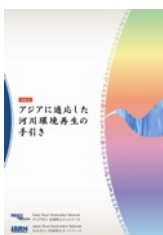
○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2369.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1 （2009.3 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■河川の管理と空間利用 ―川はだれのものか、どうつき合うか―（2009.9 発刊）

- ・著者：吉川勝秀（JRRN 会員）
- ・出版社：鹿島出版会
- ・発行年月：2009年9月
- ・価格：3,570円（税込）
- ・ISBN：978-4306024137



本書は、河川管理の実務的ノウハウを踏まえ、これからの河川の管理・整備、そして河川空間の利用についての全体像を述べた解説書です。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

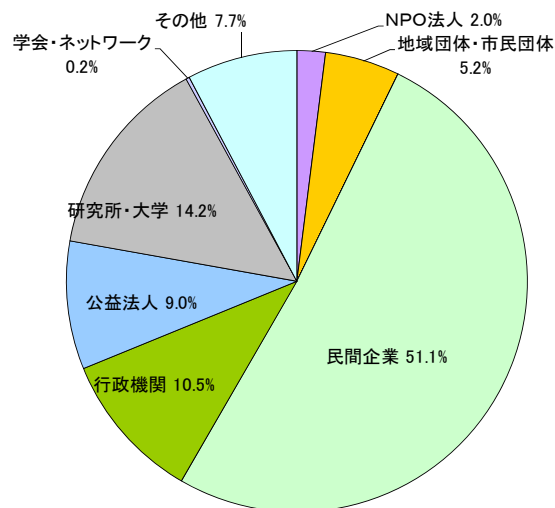
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010年9月30日時点の個人会員構成
(個人会員数：450名、団体会員数：19団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテ中央ビル7階

Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、財団法人リバーフロント整備センターと株式会社建設技術研究所が運営を担っています。